

近代英国社会史序説  
——歴史叙述の作法における 19 世紀と 20 世紀——

---

目 次

はしがき .....	i
------------	---

## 第1部 歴史叙述の形式としての経済史と社会史

---

序 「グレゴリアン・リアリズム」をまとったレーニンとしての ピーター・ラズレット .....	2
1. P. ラズレットによる「人口および社会構造の歴史」の宣言	2
2. 歴史認識における「主観」と「客観」 —ヘラクレイトス、プラトン、そしてヒューム—	4
3. 社会史による「主観」と「客観」との間のせめぎ合いへの注目	11
4. マルクス「唯物史観」体系の代償	13
5. ロストウ「動学的体系」の代償	17
6. 歴史叙述と「分有」の原理	19
7. 「社会構造史」の成果と課題	24
8. 「グレゴリアン・リアリズム」と英国流アヴァンギャルド	30
9. 社会史に学ぶ	33
第I章 経済発展段階説的思考と歴史の叙述 .....	41
1. 経済発展段階説の構造	41
2. 経済発展段階説的思考に対する異論のはじまり	46
3. 「古典的マナー」モデルの盛衰	48
4. 「ブルジョワ革命」論の盛衰	55
5. 古典的「産業革命」論の盛衰	61
6. 古典的「農業革命」論の盛衰	68
小 括	78
第II章 叙述の実験としての「工業化」の地域史叙述 .....	88
1. 普遍的な歴史的「進歩」の観念からの旅立ち	88

- 2. 個別事実の実証研究から歴史叙述に向けて 94
  - (1) ランケの「事物を覆う殻」 94
  - (2) 技術、「前線」、プラットフォームそして兵站線 97
  - (3) 経済世界の「無条件の進歩」の観念 105
- 3. 「統一と継続の諸原則」から歴史的「発展」へ 106
- 4. 「工業化」過程の地域研究 118
- 小 括 135

## 第2部 「地方史」

---

### 第Ⅲ章 「地方史」前史……………146

- 1. 近代初期英国における「地方誌」叙述の伝統とその衰退 146
- 2. 中世マナー制に関する古典学説と「地方史」、「家族史」 151
- 3. 英国中世農村社会史のはじまりと「家族」へのまなざし 163
- 4. 中世村落と地域 174
- 小 括 181

### 第Ⅳ章 「地方史」の方法と実践……………187

- 1. 「分有 (participation)」の原理による「地方史」 187
- 2. 社会科学の方法としての「分有」の原理 190
- 3. 「地方史」の方法の展開 201
- 4. 「地方史」の実践 211
- 小 括 236

## 第3部 「社会構造史」

---

### 第Ⅴ章 歴史人口学から「社会構造史」へ……………246

- 1. ケンブリッジ・グループの「地方史」との出会い 246
- 2. 「社会構造史」への道 250

- (1) 人口分析の思想的根拠 250
- (2) 歴史人口学の発展と課題 255
- 3. 『われら失いし世界』と「社会構造史」 268
- 4. 人口と「工業化」 281
- 小 括 288

第VI章 「社会構造史」からマイクロ・ヒストリーへ …………… 296

- 1. 「家族復元分析」と「過去投影推計法」 296
  - (1) 人口と社会経済 296
  - (2) 「逆投影推計法」と「過去投影推計法」 299
  - (3) 近代初期イングランドの人口と社会経済 306
- 2. 「家族」と「世帯」 316
  - (1) 「家族」の「世帯」への変換 316
  - (2) 家族研究の進展 329
- 3. 「高度有機経済」 335
  - (1) マクファーレンの‘イングランドにおける個人主義の伝統’ 335
  - (2) 「高度有機経済」から「鉱物エネルギー経済」へ 339
- 4. マイクロ・ヒストリーの実践 347
  - (1) K. ライトソンの地域研究 347
  - (2) マイクロ・ヒストリーの成果と課題 355
- 小 括 371

結 語 「生き生きとしたもの」と普遍的なもの…………… 382

- 1. 20世紀歴史叙述の成果の意味 382
- 2. 新しい歴史叙述の展望 391

あとがき …………… 395

人名索引 …………… 400